未来へつなぐ

市民インタビュー Vol.12

やいづ親善大使　しんえがおスターズ
歌で焼津におんがえしを！

プロフィール

しんえがおスターズの港八郎さんと千草かおりさんは焼津市在住の歌手で、「新焼津音頭」などを歌っている。この曲は、1960年代に当時の大石虎之助元市長が港さんへ依頼し、完成した楽曲で、2013年に門下生である千草かおりさんとアレンジして発売した。歌と踊りで焼津を活性化するために日々活動を続けている。

議員が直接話を聞いて市民の本音に迫る「市民インタビュー」。前号に引き続き、焼津市の魅力をPRしていただいている「やいづ親善大使」の皆さんをシリーズで紹介する第三弾として、しんえがおスターズの港八郎さん、千草かおりさんにお話を伺いました。

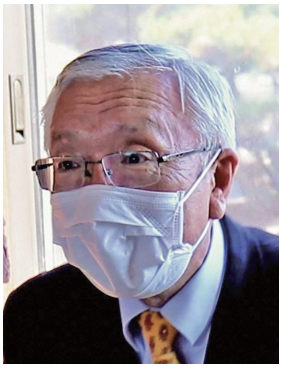
焼津みなとまつり

1．歌手になろうと思ったきっかけは？

港さん　まだバンド演奏がほとんどない中学生の時に、姉がバンド演奏を聴きに誘ってくれました。その時に歌ってと言われ、バンド演奏で歌を歌うのはハラハラでしたが、なかなかいいじゃないかと言ってもらえました。そこで歌ったことがきっかけで中学3年生の時に歌手になりたいと思いました。そこからずっと歌手になると決めていました。その後、船山潤という芸名で有名な歌手の前座を3年行った後上京しました。

港　八郎さん

千草さん　私は歌が好きでしたが、英語の先生をしていたため、畑違いのところにいました。ある時、自分の人生の中で歌の大切さを知り、演歌も大好きだし、何かお手伝いできないかと思って先生（港さん）の門をくぐりました。全くだめだったのですが、先生に一生懸命ご指導していただきました。そして東日本大震災の時に、先生が「私には大石虎之助元市長からいただいた新焼津音頭がある。私が応援できることは歌しかないので、焼津から東北にエールを送りたい。」とおっしゃっていました。それはとてもいい考えだと賛同し


〈インタビュアー〉
岡田光正 議員

たのですが、そうしたらデュエットだからあなたも歌いなさいということになりまして、歌手になり今に至っています。

2．「しんえがおスターズ」の名前の由来について教えて！

父が亡くなり、長男の私は東京から夢半ば焼津へ戻ってきました。新焼津音頭を発売した時は焼津をあげて応援してもらったのに、恩返しをしていない、どうしたらよいかと考えていました。その時千草さんが「焼津を歌った歌を今様にアレンジして歌ったらどうか」と言ってくれました。

市民文化祭

その後２０１３年にＣＤを全国発売したので、中野弘道市長にポスターを持って挨拶に行き、中野市長にコンビ名をつけていただきたいとお願いしました。

そこで「しんえがお」と考えてくださったのです。「『しんえがお』はどうか。」と電話をもらい、由来を聞いたところ、「『おんがえし』という言葉が印象に残っていたから、並び替えて何か良い言葉がないかと考えて『しんえがお』を思いついた。」と話してくれました。私が「焼津が活性化できるなら恩返しがしたい」と言っていたことを覚えてくださっていたのです。

現在に至るのは、みなさんのおかげなので、少しでも恩返しできるよう頑張っています。

千草かおりさん

3．親善大使の活動について教えて！

私たちは歌で親善大使になりました。浅草まで行って舞台を行い、物産展では焼津のいいものを持っていきます。帰る時には完売していますよ。

また、ＦＭ島田で毎週金曜日にラジオのパーソナリティをしています。ゲストで中野市長に出てもらったり、焼津市内の社長さんに出てもらったりして、その時に焼津のことをアピールしています。ラジオは世界にネットワークがあるので、海外から聞いたよと言ってくれることもありました。

4．焼津のよかったと思うところは？

昔は海岸にある市場にマグロを並べていました。冷凍が無い時代だから早く箱に入れないといけないので、男も女も言葉が荒いこと荒いこと。とても怖かったです。でも早くしないと魚が腐ってしまうので、荒いけどそれがすごく温かったです。結束力があって味がある。他市の人が言葉を聞くと、冷たいなとびっくりしてしまいますが、でもそれが好きでした。

〈インタビュアー〉
松島和久 議員

5．今後やってみたいことは？

新型コロナウイルスの感染が拡大し、全世界の人たちがここでじっくり考え直さなければならないと思っています。知恵を絞って少しでも緩和するためには何をすべきか、我々は歌です。東日本大震災の時も被災地にエールを送るために歌いました。コロナ禍であっても最善の努力をして、人様に手拍子をしてもらいながら、一緒に悩みを解消し、明日へのエネルギーを与えていきたいと思います。